

統合分野

【 在宅看護論 】

授業科目	在宅看護概論		対象学年・時期	2年生・前期
			単位数	1
			時間数	1
講師名	看護師		講義時間	14
			テスト時間	1 (45分)
学習目標	1. 日本の社会の動向を把握し、在宅における看護の必要性が理解できる。 2. 在宅で療養する対象とその家族が理解できる。 3. 在宅看護の役割・機能が理解できる。 4. 在宅看護の歴史の変遷を知り、社会制度との関連が理解できる。 5. 在宅で療養する人々の尊重と権利を理解し、看護の役割を学ぶことができる。 6. 在宅におけるチームケアの意義を知り、継続看護の必要性が理解できる。			
回	主 題	学習内容及び方法		授業方法
1回	1. 在宅看護の目的と特徴	1) 在宅看護の特徴 2) 在宅看護の位置づけ 3) 在宅看護の目的		講義 VTR
2回	2. 在宅看護の対象者と生活	1) 在宅看護の対象者 ①健康レベル ②年齢・役割・家族のライフスタイル ③地域・環境 2) 対象者の生活 3) 家族の支援 ①家族機能の特徴と変遷 ②在宅看護の対象者としての家族		講義 グループワーク
3回	3. 在宅看護活動の始まりと歴史の変遷	1) 保健福祉と高齢者保健福祉対策 2) 在宅看護の現状 3) 世界の訪問看護の動向		講義
4回	4. 在宅看護における役割と機能	1) 看護師の役割と機能 2) 生活の中で必要となる安全管理 3) 看護の提供方法 ①外来看護 ②訪問看護 ③施設での看護		講義 グループワーク
5回	5. 在宅看護における権利の保障	1) 自己決定の支援 2) 個人情報の保護と情報開示 3) 権利擁護・成年後見人制度 4) 虐待の防止		講義 グループワーク
6回	6. 訪問看護の概要	1) 訪問看護制度の理解 2) 介護保険制度・医療保険制度 3) ケアマネジメント 4) 訪問看護サービスの仕組みと継続性		講義
7回	7. 療養の場の移行に伴う看護の継続性	1) 入院機関、施設と在宅を結ぶ看護の連携 2) 退院支援・退院調整のプロセス 3) 地域包括ケアシステムにおける多職種連携		講義 グループワーク
8回	筆記試験			
評価方法	筆記試験、課題提出			
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論, 医学書院,			
参考文献	渡辺裕子監修：在宅看護論 I 概論編, 日本看護協会出版会 櫻井尚子他：地域療養を支えるケア, メディカ出版 国民衛生の動向			

授業科目	在宅看護援助技術：診療の補助技術		対象学年・時期	2 年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	16
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 在宅看護を展開するための援助方法と基礎的技術を身につける。 2. 生活援助用具とその利用方法を理解する。			
回	主題	学習内容及び方法		授業方法
1 回	1. 在宅における医療管理に伴う援助技術	1) 褥瘡管理 ①褥瘡発生のリスクアセスメントと発生予防 ②褥瘡のアセスメントと処置 ③除圧・体位変換に関する器具の種類と選択		講義・DVD
2 回		2) 膀胱留置カテーテル法 ①対象者 ②在宅での管理方法 ③合併症の予防		講義・DVD
3 回		3) ストーマ(人工肛門・人工膀胱) ①対象者 ②生活の工夫 ③合併症の予防		講義・DVD
4 回		4) 胃瘻・経管栄養法 ①対象者 ②栄養剤の種類と特徴 ③栄養評価 ④合併症の予防 5) 中心静脈栄養法 ①対象者 ②栄養剤の注入方法と評価 ③合併症の予防		講義・DVD
5 回		6) 酸素療法 ①対象者 ②機器の種類 ③合併症の予防 ④安全管理と援助		講義・DVD
6 回		7) 人工呼吸器(非侵襲的換気療法) ①対象者 ②人工呼吸器の原理・構造 ③気道の浄化 ④合併症の予防		講義・DVD
7 回		8) 薬物療法 ①服薬状況の把握 ②医師及び薬剤師との連携 ③外来通院中の在宅療養者に対するケア(麻薬・化学療法)		講義
8 回		9) 疼痛緩和 ①在宅における疼痛緩和ケア ②疼痛緩和ケアの適応		講義
評価方法		筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論(医学書院)			
参考文献	木下由美子：新版 在宅看護論(医歯薬出版) 在宅看護技術—その手順と指導ポイント(メヂカルフレンド社) よくわかる在宅看護(Gakken)			

授業科目	在宅看護援助技術：日常生活の援助技術		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	13
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 在宅看護を展開するための援助方法と基礎的技術を身につける。 2. 生活援助用具とその利用方法を理解する。			
回	主題	学習内容及び方法		授業方法
1～2回	1. 在宅看護における基本技術	1) コミュニケーション技術 (1) 訪問時の基本的マナー ①訪問前の準備 ②訪問時の対応 ③訪問後の整理 (2) 在宅看護に必要な面接・相談技術・指導技術 2) 観察の技術 ①呼吸機能 ②嚥下機能 ③排泄機能 ④活動機能 ⑤認知機能		講義
3回	2. 日常生活の援助技術	(1) 食事・栄養の援助 ①摂食・嚥下障害時の援助 ②栄養補助食品の種類と選択方法 ③口腔ケア		講義
4回		(2) 清潔の援助 ①在宅で実施する清潔方法の種類と方法 ②清潔ケアと社会資源の活用		講義
5回		(3) 移動の援助 ①自立支援と安全の確保 ②補助具の使用 ③自立移動に必要な筋力評価と強化方法		講義
6回		(4) 排泄の援助 ①排泄状況と障害 ②便秘の予防と援助(摘便) ③尿・便失禁の援助		講義
7回(45分)		(5) 認知機能のアセスメント法と援助技術 ①認知機能のアセスメントと援助 ②認知機能のアセスメントが必要な療養者への在宅看護 ③認知機能に障害を持つ在宅療養者への看護		講義
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院)			
参考文献	木下由美子：新版 在宅看護論 (医歯薬出版) 在宅看護技術—その手順と指導ポイント (メヂカルフレンド社)			

授業科目	在宅で療養する対象の看護		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	15
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 在宅看護を展開するための方法を理解する。 2. 社会資源を活用し、他職種と協働する中での看護の展開を理解する。			
回	主題	学習内容及び方法		授業方法
1・2回	1. 在宅における連携とマネジメント	1) 医療機関との連携 ①地域連携パス ②外来・地域連携部門との連携 ③他職種との連携・協働 2) 在宅におけるチームケア ①地域包括ケアシステム ②チームケアの意義と実際 3) ケアマネジメント・ケースマネジメント ①概念 ②プロセス ③実際 ④社会資源の理解と活用		講義 グループワーク
3・4回	2. 在宅看護の実際	1) 在宅看護の展開 ①在宅看護過程の特徴 ②情報収集とアセスメント ③目標・評価 ④実施と評価 2) 在宅看護介入時期別の特徴		講義 グループワーク
5回		3) 在宅看護における安全性の確保 ①医療事故防止 ②感染防止 ③療養生活上の安全確保 ④災害時の在宅看護		講義
6・7回		4) 日常生活動作の低下及び疾病の再発予防が必要な療養者の看護 ①状態のアセスメントと環境調整 ②療養者・家族のセルフケアマネジメント力を維持高める支援		講義
8回(45分)		まとめ		講義
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院)			
参考文献	国民福祉の動向、国民衛生の動向 木下由美子：新版 在宅看護論 (医歯薬出版)			

授業科目	在宅で療養する対象の看護		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	14
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 在宅看護を展開するための方法を理解する。 2. 社会資源を活用し、他職種と協働する中での看護の展開を理解する。			
回	主 題	学習内容及び方法		授業方法
1回	1. 在宅看護の実際	1) 急性期にある療養者の看護 ①緊急性と重症度のアセスメント ②状態に合わせた対応・調整 ③急性症状への対応		講義
2回		2) 回復期（リハビリテーション期）にある療養者の看護 ①脳血管障害の療養者に対する看護 ②合併症の予防と対応 ③居住環境の調整 ④社会資源の活用・調整、補助用具の種類と選択方法		講義
3・4回		3) 慢性期にある療養者の看護 ①認知症の療養者に対する看護 ②呼吸障害（COPD）の療養者に対する看護 ③難病（パーキンソン病・ALS）の療養者に対する看護 ④精神障害の療養者に対する看護		講義
5・6回		4) 終末期（がん）の療養者に対する看護 ①症状マネジメント ②緩和ケアの実際 ③看取りの看護 ④家族へのグリーフケア		講義
7回		5) 小児の在宅療養者に対する看護 ①在宅療養継続のための療養者の健康管理 ②療養者の自立支援とQOLの維持・向上（尊厳保持、成長、権利擁護を含む）のための在宅療養支援 ③在宅療養継続のための家族支援		講義
評価方法		筆記試験		
テキスト		系統看護学講座 統合分野 在宅看護論（医学書院）		
参考文献		国民福祉の動向 国民衛生の動向 木下由美子：新版 在宅看護論（医歯薬出版）		

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター附属高崎看護学校

授業科目	在宅看護論演習		対象学年・時期	2年生・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	30
			テスト時間	課題評価
学習目標	<p>1. 訪問看護における初回訪問の目標達成に向けた行動と態度を理解できる。</p> <p>2. 在宅で療養する対象の事例を通して、生活を重視した看護過程の展開ができる。</p> <p>3. 在宅看護における日常生活援助技術が理解できる。</p> <p>4. 在宅看護における医療管理を必要とする人との看護技術が理解できる。</p>			
回	主 題	学習内容及び方法		授業方法
1回～2回	初回訪問	<p>1. 訪問看護におけるマナー</p> <p>2. 初回訪問を計画</p>		講義 グループワーク
3回	初回訪問	3. 初回訪問を計画ロールプレイング		ロールプレイ(実習室)
4回～ 12回	在宅看護 過程展開	<p>1. 在宅看護過程展開の特徴</p> <p>①情報収集②アセスメント③看護計画④実施⑤評価</p> <p>2. 対象の状態に合わせた適切な援助計画</p> <p>①ケアマネジメント：社会資源の活用/多職種との連携</p> <p>②生活の場 ③療養者及び家族支援</p> <p>④在宅における安全性の確保</p> <p>3. 事例の看護</p> <p>①脳血管障害後遺症のある療養者(回復期)</p> <p>②難病で在宅療養をしている療養者(慢性期)</p> <p>③癌終末期の療養者(終末期)</p> <p>*事例を選択して、看護過程展開を行う。(個人・グループ)</p> <p>*情報収集とアセスメントは個人ワークで行い、提出する。 (個人ワーク、情報収集・アセスメントまでを6回終了時に提出)</p> <p>*個人ワークしたものを踏まえて、グループワークを行う。 (看護計画立案までを行い、9回終了後提出する)</p> <p>*訪問看護の計画をして、援助場面をロールプレイングで行う。(10回目に訪問看護計画を立て、援助の準備をする)</p> <p>*訪問看護計画書の作成</p> <p>4.訪問看護のロールプレイング後、振り返りを行う。</p> <p>*訪問看護報告書の作成</p>		講義(教室) グループワーク ロールプレイ (実習室)
13回～ 15回	在宅療養 生活を支 える援助	<p>1. 食事機能低下時の援助(食事内容の選択、食材の調達)</p> <p>2. 排泄機能低下時の援助(排泄用具の種類と選択、便・尿失禁の予防、便秘の予防(摘便))</p> <p>3. 清潔の援助(清潔方法の種類と実際)</p>		演習(実習室)
評価方法	看護過程展開提出物・課題提出物			
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論, 医学書院,			
参考文献	渡辺裕子監修：在宅看護論 I 概論編, 日本看護協会出版会 櫻井尚子他：地域療養を支えるケア, メディカ出版 国民衛生の動向			

【 看護の統合と実践 】

授業科目	看護管理		対象学年・時期	3年次・前期
			単位数	1
			時間数	15
講師名	看護師		講義時間	14
			テスト時間	1 (45分)
学習目標	1. 看護管理の目的と機能について理解できる。 2. 組織の一員としての看護師の役割や行動が理解できる。 3. 看護を経営的・経済的側面から考える。 4. 看護職のとしての生涯教育を考える。			
回数	主題	学習内容及び方法		授業方法
1回	1. 看護とマネジメント 2. 看護ケアのマネジメント	1) 看護管理とは何か 2) マネジメントとは何か 1) 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2) 患者の権利の尊重		講義
2回	2. 看護ケアのマネジメント	3) 安全管理 (1) 安全管理のしくみ (2) 医療安全対策 4) チーム医療 (1) 看護職の責任と役割 (2) 他職種との連携・協働 5) 看護業務の実践		講義
3回	3. 看護サービスのマネジメント	1) 組織目的達成のマネジメント (1) 看護の組織化 2) 看護サービス提供のしくみづくり 3) 人材のマネジメント		講義
4回		4) 施設環境・物品のマネジメント 5) 情報のマネジメント		講義
5回		6) リスクマネジメント (1) 災害対策 7) サービス評価		講義
6回	4. 看護を取り巻く諸制度	1) 保健医療福祉政策と最近の動向 2) 政策と制度と看護サービス		講義
7回	5. マネジメントに必要な知識と技術	1) 組織経営と倫理 2) 労働管理		講義
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 統合 看護管理 看護の統合と実践① (医学書院)			
参考文献				

授業科目	医療安全 (医療安全管理)		対象学年・時期	3年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	23
			テスト時間	1 (45分)
学習目標	1. 医療における安全管理（リスクマネージメント・セイフティマネージメント）の必要性を理解する。 2. 医療事故の事例を基に、事故の原因・誘因、事故後の対応について考察する。			
回数	主題	学習内容及び方法		授業方法
1回	1. 医療事故・医療安全を学ぶ意義	1) 医療安全を学ぶ大切さ		講義
2、3回	2. 事故防止の考え方	1) 医療事故と看護業務 2) 看護事故の構造 3) 看護事故防止の考え方		講義・演習
4、5、6回	3. 診療の補助業務に伴う事故防止（患者に投与する業務における事故）	1) 業務特性からみた患者に投与する業務の事故 2) 注射業務と事故防止 3) 注射業務に用いる機器 4) 輸血業務と事故防止 5) 内服予約業務と事故防止 6) 経管栄養業務と事故防止		講義・演習
	4. 診療の補助業務に伴う事故防止	1) チューブの管理		講義
7、8回	5. 療養上の世話における事故防止	1) 療養上の世話における2群の事故のとらえ方 2) 転倒・転落事故防止 3) 誤嚥事故防止 4) 異食事故防止 5) 入浴中の事故		講義
9回	6. 業務領域を超えて共通する間違いと発生要因 7. 医療安全とコミュニケーション	1) 業務領域をこえて共通する患者間違い 2) 間違いを誘発する多重課題、タイムプレッシャーと業務途中の中断 3) 新人特有の危険な思い込み行動パターン 1) 事故防止のための医療者間のコミュニケーション 2) 事故防止のための患者とのコミュニケーション		講義
10回	8. 医療事故安全対策の展望	1) 組織としての安全対策 2) 国内外における安全対策と国際的連携		講義
11回	9. 医療事故の事例に基づき、事故の原因…誘因の分析	1) 事例－チームステップス		演習
12回 (45分)	10. 分析の共有化	1) 演習の発表		演習
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 統合 医療安全 看護の統合と実践② (医学書院)			
参考文献				

授業科目	医療安全 (感染管理)		対象学年・時期	3年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	6
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 医療事故の観点から、院内感染予防策及びスタンダードプリコーションを理解する。			
回数	主題	学習内容及び方法		授業方法
1回	1. 感染防止の技術	1) 感染防止の基礎知識 2) 標準予防策 3) 感染経路別予防策		講義
2回	2. 感染予防の技術の実際	1) 針刺し事故防止		講義
3回		2) 中心静脈カテーテル等の関連感染対策		講義
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 統合 医療安全 看護の統合と実践② (医学書院)			
参考文献				

授業科目	災害看護		対象学年・時期	3年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	<p>1. 災害の定義及び災害医療の概要を理解する。 2. 災害サイクルにおける保健福祉医療ニーズや活動の場に応じた看護を理解する。 3. 我が国における災害対策と災害救助活動をとおして、国際協力の必要性を理解する。 4. 災害看護の実際をシミュレーションをとおして理解する。</p>			
回数	主題	学習内容及び方法		授業方法
1～2回	災害医療の基礎知識	1) 災害の定義 2) 災害の種類と健康障害 3) 災害医療の特徴 4) 災害と情報 5) 職種間・組織間連携 6) 災害看護と法律 7) 我が国の災害対策と国際協力		講義
3～5回	災害看護の基礎知識	1) 災害看護の定義 2) 災害看護の対象者 3) 災害看護の特徴と看護活動		講義
6～7回	災害サイクルに応じた活動現場の災害看護	1) 急性期・亜急性期（初動体制 トリアージ） 2) 慢性期・復興期・静穏期		講義
8～9回 10回(45分)	被災者特性に応じた災害看護	1) 子ども・妊産婦・高齢者・障害者・精神障害者 慢性疾患患者・在日外国人に対する災害看護 2) 災害とところのケア 被災者・遺族・被災救援者のところのケア 救援者のストレスとところのケア 3) 災害看護の特徴と看護活動		講義
11～15回	災害時の看護の実際	1) トリアージ 2) 搬送 3) 応急処置		講義・演習
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 統合 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③ 医学書院			
参考文献				

授業科目	国際看護		対象学年・時期	3年次・後期
			単位数	1
			時間数	15
講師名	看護師		講義時間	14
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 国際社会における看護の役割を理解する。 2. 看護職としての諸外国との協力のあり方を理解する。 3. 国際社会における医療福祉の現状を理解する。			
回数	主題	学習内容及び方法		授業方法
1回	国際看護学とは	1) 世界の健康問題の現状 2) 国際看護学の定義 3) 国際看護学の対象 4) 国際看護学に関連する基礎知識		講義
2～3回	グローバルヘルス 国際協力のしくみ	1) グローバルヘルス 2) 国際救援・保健医療協力分野で活躍する国際機関 3) 国際救援の調整 4) 開発協力		講義
4回	文化を考慮した看護	1) 文化を考慮した看護理論 2) 日本における文化や制度を考慮した在留外国人への看護の実践		講義
5回	国際看護活動の展開過程	1) 情報収集とアセスメント及び問題の明確化 2) 計画 3) 実施 4) 評価		講義
6～7回	開発協力と看護	1) 開発途上と看護 2) 開発途上国における国際看護の展開		講義
	国際救援と看護	1) 近年の世界における災害と難民・国内避難民の現状 2) 国際救援活動の基本理念 3) 国際的な災害救援および復興支援にかかるガイドライン 4) 近年の特徴的な災害・紛争救援活動の概要 5) 国際救援における看護の展開 6) 21世紀の国際協力の課題		講義
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 統合 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③ 医学書院			
参考文献				

授業科目	臨床看護技術演習		対象学年・時期	3年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師 ★		担当時間数	30
			テスト時間	課題評価
学習目標	<p>1. 基礎分野から専門分野Ⅱまでに学んだ看護の知識・技術をもとに、複合した治療処置、生活援助技術を必要とする対象の援助を考え、技術を実践する。</p> <p>2. 患者の看護の優先度および複数患者の看護の優先度を考えることができる。</p> <p>3. 自己の看護技術の到達状況と課題を明確にする。</p>			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態及び教室
1回	統合分野の位置づけと本科目の概要	看護の仕事とは 1) 現在、考える看護の仕事とは何か 2) 看護師として働くとは 3) 複数患者を受け持つための情報収集・管理 4) 1日のスケジュールの立て方と業務時間の管理		講義
2～4回	複数患者の看護	課題 1) 患者A・Bそれぞれの状態 2) 患者A・Bそれぞれに必要な看護 3) 患者A・Bそれぞれに必要な看護の優先順位 4) 患者間における優先順位とその理由 5) 報告・連絡・相談の必要性 1)～5)についてグループワーク		演習
5回		発表とまとめ		演習・講義
6回	複数患者の多重課題の看護実践	1) 多重課題の危険性 2) 多重課題発生時の対処の原則 3) とるべき行動と優先順位、またその理由 課題事例をもとに考える		講義 演習
7～10回		課題の実施・評価		演習
11～15回	看護技術演習	課題 複合的な援助を要する患者への援助 1) 必要な援助方法を考える 2) 演習計画の立案 3) 計画に基づいて、必要な援助を実施 4) 評価		演習
評価方法	レポートおよび課題			
テキスト	系統看護学講座 統合 看護管理 看護の統合と実践① (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅰ 看護学概論 基礎看護学① (医学書院)			
参考文献	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ (医学書院) 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 (医学書院)			